

つながりを切らない
孤立させない
新しいつながり方を提案する



第48号

発行日 2022年7月22日(金)

発行元

「つながりを切らない」情報・交流ネットワーク

〒981-0932

仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F (CLC内)

FAX: 022-727-8737 E-Mail: t-net@clc-japan.com

ホームページ: <https://www.t-net.online/>

- ・民生委員、児童委員の皆さんに…
- ・サロンや地域のボランティアの皆さんに…
- ・配食のお手紙に添えて…

こんなふうに使ってね

この通信の印刷、配布はご自由にご利用ください。記事やイラストの一部を転載・転用する場合は、t-net@clc-japan.comまでご連絡をお願いいたします。

無理せず、できることのでつながりを切らない

やさえ愛なごころ (埼玉県長瀬町)

埼玉県長瀬町の第1層生活支援体制整備協議体である「やさえ愛なごころ」

は、30〜80歳代の18人で構成されています。老人クラブや子育てサロン運営者のうち、協議体の勉強会に参加し、支え合い活動・地域活動等へ関心の高い人に長瀬町社会福祉協議会が声をかけて組織しています。

コロナだからこそ、
つながりを切りたくない

新型コロナウイルス感染症予防の観点からサロン活動なども休止となり、これまでの活動で築いてきたつながりが切れてしまうことへの危機感が協議体メンバーの中に募ります。「コロナだからこそ、つながりを切りたくない」というのは、協議体のメンバーの言葉です。「やさえ愛なごころ」の前委員長、高田幸好さんは、「無理した活動はやる必要はない

が、できることは何でも取り組んでいきたい」と語ります。

たとえば、生活支援体制整備事業の広報誌として、協議体の活動報告などのため発行していた「やさえ愛なごころだより」は、医師の寄稿によるコロナに関する正しい情報を掲載し、つながりを維持することを目的に発行回数を増やしました。各サロンの主催者がサロンメンバーに対して発信する「サロン通信」の発行支援も実施。これらの情報誌は、サロンメンバーや地域の高齢者にできるかぎり声かけをしながら配布し、つながり維持、安否確認にもつなげていきます。

2020年度からは、ふれあい七夕まつりを実施。各地区のサロン主催者を中心に、サロン参加者や地区の高齢者に短冊を配布して願いごとなどを書き込んでもらい、回収します。配布と回収は安否確認を兼ねており、地区内に設置した竹飾

りを見に行くことで外出機会にもなるというイベントです。2020年度は6地区で、2021年度は8地区で開催。「みんなでつくりあげた」という一体感が生まれた」という声があがったり、高齢者だけでなく子どもたちも参加し、世代間交流につながったところもあります。

長瀬町社会福祉協議会の生活支援コーディネーター野口恵子さんが、高齢者の暮らしを支えるサービス(配食、移動販売、見守り、訪問サービスなど)を実施するお店を登録・情報提供する埼玉県の事業を紹介し、町内のお店の情報提供を依頼しました。すると、メンバーの中から、「高齢者にインターネット検索は難しいので、紙媒体で長瀬町独自のマップがあ



お役立ちマップ



編集風景

るとよいのではないかとその意見が出て、「お役立ちマップ」作成に取り組むことになりました。

グループLINEなども活用しながらの打ち合わせや編集作業は合計30回以上。お店の情報収集や取材、写真撮影、原稿整理やマップのデザインづくり、レイアウトなど、すべてを協議体メンバーと野口さんが分担して作業し、完成したマップ

は、町内全戸に配布されました。

野口さんは、「町内のお店を巡ると、お店の人が福祉に関心をもっていたり、お客さんに認知症の兆候があることに気づいていることがわかり、新たなつながりづくりにもなりました」と振り返ります。

コロナ禍でも無理せず、身近なつながりに目を向けた活動は、それぞれのつながりをさらに色濃く、強めているに違いないと語ります。

つながるポイント

- ・自治会の配布物を「安否確認」の一環という共通認識を持ち、気になるお店の日々の見守り、短い会話で日常のつながりを続ける
- ・住民の気づきやニーズをたいせつにし、つながりを育んでいく

コロナ禍でも地域に合うかたちを住民発で考える

社会福祉協議会立子山協議会（福島県福島市）

福島県福島市の立子山地区では、新型コロナウイルス感染症予防のため、これまで取り組んできた介護予防体操の開催や日常的なつどいを続けることが難しくなつたことに危機感をもつた住民と専門職が知恵を出し合つて、新たな取り組みとつながりを生み出しています。

介護予防体操を自粛しても

立子山地区は、福島市版介護予防体操「いきいきもりん体操」に取り組む65歳以上の人が21.1%と、市内で最も高い地区です。地区住民が自主的に立ち上げたグループが増えてきたことから、2018年からは、「いきいきもりん体操」代表者会議として代表者が集まり、地域での交流会を開催し、地域の健康づくりについて情報交換も行っています。

高齢者が新型コロナウイルスに罹患した場合に重症化しやすいことから、高齢化率が高い立子山地区に感染者が出ることへの不安が高まりました。いきいきもりん体操活動団体だけでなく、地区内にある6つのサロン活動も一斉に活動を自粛。このような状況のなかで、足腰が弱つたり認知機能が低下する人の相談が増えていることを実感した立子山・飯野地域包括支援センターが、いきいきもりん体操代表者会議代表、立子山支所へ声をかけ、話し合いの機会がもたれました。

「コロナ禍なので、集まらなくてもでき

ることをしよう」と生まれたアイデアが、「福島市健康づくりポイント事業」を立子山版として取り組むことでした。立子山地区では、市の目標の「体重測定」・「歯みがき」に加えて、地区の独自の目標として「運動」「減塩」「検温を掲げ、何回かの検討のすえ、「たつごやま健康チャレンジシート」を作成しました。

たつごやま健康チャレンジシートは、もりん体操の代表者だけでなく、民生委員やサロンボランティアも配布に協力しました。会員高齢者宅に戸別訪問し、地区の高齢者とおしゃべりをするのが高齢者の楽しみな時間となるだけでなく、配布する人にとつても「自分たちが地域の役に立っていると感じられる」という前向きな気持ちを生み出すことにつながりました。気になる人がいれば支所の窓口や地域包括支援センターにつなぎます。地域の高齢者と事業の橋渡しをしてくれた住民の思いが、つながり続けるための大きな力であったことは言うまでもありません。

ふだんの暮らしを意識化

立子山のある地区では、100年ほど前から町内会の集まりを毎月開催している地区や、地元で採れた野菜の提供を受けて、近況を伺いながらの配食活動を実施するなど、地域のつながりをたいせつにする土台があります。

たつごやま健康チャレンジシートに取



り組むことで、住民自身がこれまでの生活を振り返り、何気ない暮らしの中で行っていることの意味や住民同士の関係性を意識化することになっていきます。

また、住民のこうした活動や高齢者の元気な暮らしは、健康長寿の二本として、立子山・飯野地域包括支援センターの広報紙で紹介しています。自分の出番を待つ90歳代の方々にとつては、それも楽しみのひとつになっているようです。

住民の思いが、専門職や地区組織を動かした立子山地区。この地区で過ごすすべての人たちが、日々の暮らしの中でつながりを持ち続けることを目指しています。

つながるポイント

- ・集まらなくても自宅で取り組めることを楽しく地域に啓発する
- ・待つ楽しみと、届けるやりがい、地域のつながりを強くする
- ・同じことを皆で取り組んでいるという一体感・安心感がこころを豊かにする

編集部からのお知らせ

「つながる通信」シリーズ第2弾！
「withコロナ2 つながりをあきらめない
つながり続けるための私たちの工夫」
が発売中です。
詳細はコチラの
QRコードから
どうぞ。



「つながりを切らない」
情報・交流ネットワークで
最新情報をチェック！

「つながりを切らない」
情報・交流ネットワーク
<https://www.t-net.online/>



<各地の実践をお寄せください！>

「つながる通信」では、各地での実践を募集しています。「わがまちでこんな取り組みをしている」「私たちはこんな工夫をして、気になる人とつながっている」、そんな情報を編集部までお寄せください。後日、編集部より電話などで取材をさせていただき、本通信やホームページ等で紹介させていただきます。情報は、E-mail : t-net@clc-japan.com、fax : 022-727-8737まで。E-mailの場合は、タイトルを「情報提供」としていただき、①活動内容、②ご担当者名、③ご連絡先を記載ください。本通信の感想やご要望もお気軽にどうぞ！